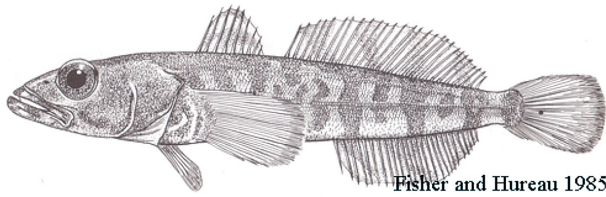


マジェランアイナメ・ライギョダマシ 南極海

Patagonian Toothfish, *Dissostichus eleginoides* & Antarctic Toothfish, *Dissostichus mawsoni*



Fisher and Hureau 1985



CCAMLR HE(C)B Watkins

管理・関係機関

南極海洋生物資源保存委員会 (CCAMLR)

最近一年間の動き

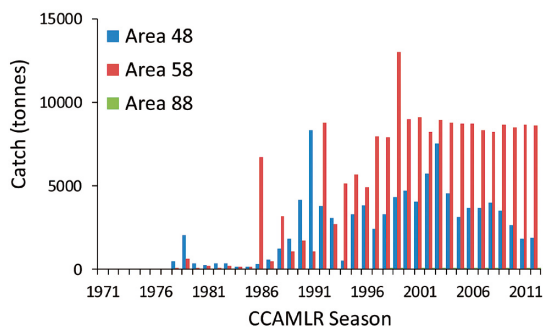
2011/12 年漁期の CCAMLR 水域内のメロ類 (マジェランアイナメ及びライギョダマシ) の報告漁獲量は 13,220 トンと、前年 2010/11 年漁期と同じであった。我が国の CCAMLR 水域における 2011/12 年漁期の漁獲量は 281 トン (マジェランアイナメ 33 トン、ライギョダマシ 248 トン) と、前年漁期の 246 トン (マジェランアイナメ 41 トン、ライギョダマシ 205 トン) より増加した。

生物学的特性

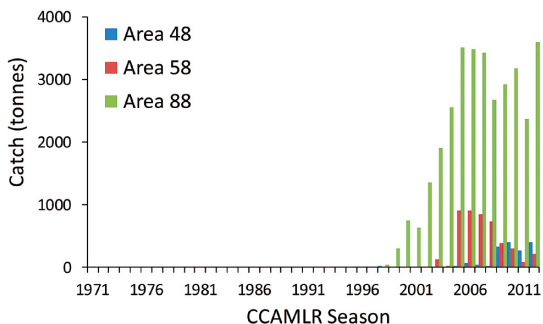
- 寿命：約 50 年
- 成熟開始年齢：6～9 歳
- 産卵期・産卵場：6～9 月、南極周辺海域の陸棚斜面水域
- 索餌場：南極周辺海域の陸棚斜面水域
- 食性：オキアミ類、魚類、いか類、甲殻類
- 捕食者：海産哺乳類

利用・用途

冷凍切身、みそ漬けなどの加工品



CCAMLR 水域におけるマジェランアイナメの漁獲量の海域別の年変化
CCAMLR Season は CCAMLR で用いられている漁期の年度を示し、単位年度は 12 月 1 日～翌 11 月 30 日である。例えば、CCAMLR の 2013 年度 (もしくは 2012/13 年度) は 2012 年 12 月 1 日～2013 年 11 月 30 日の期間に相当する。



CCAMLR 水域におけるライギョダマシの漁獲量の海域別の年変化
CCAMLR Season は CCAMLR で用いられている漁期の年度を示し、単位年度は 12 月 1 日～翌 11 月 30 日である。例えば、CCAMLR の 2013 年度 (もしくは 2012/13 年度) は 2012 年 12 月 1 日～2013 年 11 月 30 日の期間に相当する。

漁業の特徴

本資源対象の漁業の始まる前、魚類対象のトロール漁業が 1970 年頃からサウスジョージア水域、ケルゲレン諸島水域で行われていた。その漁場は 1977/1978 年以降、サウスオークニー諸島水域の高緯度域へ拡大したが、高い漁獲量は長く続かず、1980 年代初期に急減した。その後、代替としてメロ類 (マジェランアイナメ及びライギョダマシ) を対象とした底はえ縄漁業がサウスジョージア水域、ケルゲレン諸島水域及び南極大陸周辺の陸棚域で始まった。

漁業資源の動向

2011/12 年漁期の CCAMLR 水域内のメロ類の報告漁獲量は 13,220 (2010/11 年漁期 13,220) トンと、前年 2010/11 年漁期と同じであった。これまで本漁業資源に対して IUU (違法・無規制・未報告) 操業による推定漁獲量が多く、資源状態に悪影響を及ぼしていることが強く懸念され、管理措置上にも大きな問題を抱えていた。そのため、CCAMLR は輸出入に係る規制強化等 IUU 操業に対し積極的な対策を講じており、IUU 操業による推定漁獲量は年々減少傾向にある。しかしながら、海域によっては依然として IUU 操業による大きな被害が続き、正規漁船の操業に深刻な影響を及ぼしている。なお、2010/11 年以降は IUU 船目視報告の精度が問題視され、IUU 操業による漁獲量の推定は行われなくなった。

資源状態

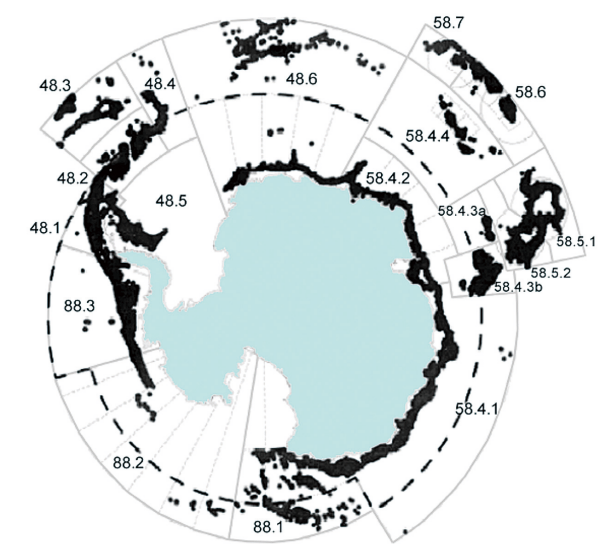
CCAMLR 水域全体での資源量調査は行われていないが、本種の主な分布域が陸棚・陸棚斜面域であることから、生息海底深度面積と生物データの組合せで小海区ごとに1～2年ごとに資源評価が行われている。ただし、日本漁船が主に操業している新規・開発操業域や調査操業域（禁漁域）では十分な資源調査が行われていないため正確な値は不明である。現在、標識放流調査並びに耳石等生物データが収集されており、これらのデータをもとに、近い将来、より正確な資源評価が行われる予定である。

管理方策

CCAMLR の科学委員会の魚類資源評価作業部会が、魚類の資源管理のための科学的検討を行っている。検討方法は海区ごとに異なり、漁獲量と CPUE の動向から判断する場合及び標識放流調査から判断する場合、資源動態モデルによるシミュレーションで判断する場合がある。その結果を受けて、CCAMLR が管理措置を決定する。なお、2013/14 年漁期の我が国の新規・開発漁業予定の小海区は4つあり、48.6 海区で 538 トン、58.4.1 海区で 724 トン、58.4.2 海区で 35 トン、58.4.3.a 海区で 32 トン、88.1 海区で 3,044 トン、88.2 海区で 390 トンの漁獲枠が設定されている。また、禁漁区である 58.4.4 海区では我が国に漁獲枠 60 トンの調査漁業が認められている。なお、58.4.3.b 海区では 2009/10 漁期以降調査漁業に準じた厳しい保存措置のもとで操業を行ってきたが、標識再捕の成果が上がらないことなどから 2012/13 漁期以降、許容漁獲量は 0 トンに据え置かれている。

資源評価まとめ

- CCAMLR 科学委員会の魚類資源評価作業部会で科学的検討を実施。
- 資源水準は低位～中位、資源動向は横ばい。



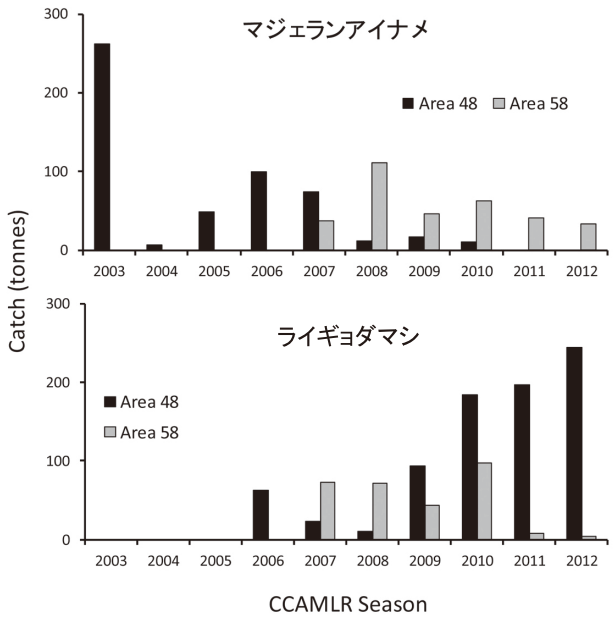
メロ類の主棲息深度と漁獲枠設定の単位となる小海区 (Subarea/division) 影の部分は、両種の主棲息深度 500～1,800 m の陸棚斜面域。太破線は 2 種の区分線。北側域；マジェランアイナメ、南側域；ライギョダマシ (CCAMLR 保存管理措置)

資源管理方策まとめ

- CCAMLR が毎年の漁獲報告データに応じて、その都度、小海区ごとに漁獲制限量を算出。
- 漁獲制限の取り決めのない海区では禁漁措置。

マジェランアイナメ・ライギョダマシ (南極海) の資源の現況 (要約表)

資源水準	低位～中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	CCAMLR 水域 1.3～1.6 万トン 平均：1.5 万トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	CCAMLR 水域 200～355 トン 平均：258 トン



我が国におけるメロ類の漁獲量の経年変化
 CCAMLR Season は CCAMLR で用いられている漁期の年度を示し、単位年度は 12 月 1 日～翌 11 月 30 日である。例えば、CCAMLR の 2013 年度 (もしくは 2012/13 年度) は 2012 年 12 月 1 日～2013 年 11 月 30 日の期間に相当する。